

# 2012年3月期決算概要と 2013年3月期の取り組み

テルモ株式会社  
執行役員 経営企画室長

羽田野 彰士

2012年5月10日

# 決算概要

(億円)

	11/3期 累計	12/3期 累計*	増減率
売上高	3,282	3,867	+18%
粗利益	1,708 (52.0%)	2,046 (52.9%)	+20%
販管費	1,082 (32.9%)	1,416 (36.6%)	+31%
うち開発費	204 (6.2%)	243 (6.3%)	+19%
営業利益	626 (19.1%)	630 (16.3%)	+1%
(のれん償却除く)	642 (19.6%)	706 (18.3%)	+10%
経常利益	569 (17.3%)	592 (15.3%)	+4%
純利益	323 (9.9%)	242 (6.2%)**	-25%

期中平均レート  
 US\$ 86円  
 EUR 113円

79円  
 109円

\*BCT:4~3月、Harvest:5~3月実績を連結、 \*\*株式評価損・売却損93億円

# テルモBCT(単体)の決算概要

(億円)

	12/3期 累計	増減率 (為替影響除く)
売上高	451	+ 8%
粗利益	278 (61.6%)	+ 6%
販管費	173 (38.3%)	+ 17%
うち開発費	29 (6.5%)	- 4%
営業利益	105 (23.3%)	- 9%
経常利益	103 (22.9%)	
純利益	65 (14.5%)	

統合一時費用除くと  
営業利益増減率は+2%

新規のれん、無形資産償却を除く

# 既存事業の決算概要

(億円)

	11/3期 累計	12/3期 累計	増減率	為替影響 除く
売上高	3,282	3,398	+4%	+6%
粗利益	1,708 (52.0%)	1,755 (51.7%)	+3%	+6%
販管費	1,082 (32.9%)	1,113 (32.8%)	+3%	+5%
営業利益	626 (19.1%)	642 (18.9%)	+3%	+8%
経常利益	569 (17.3%)	606 (17.8%)	+6%	
純利益	323 (9.9%)	274 (8.1%)	-15%	

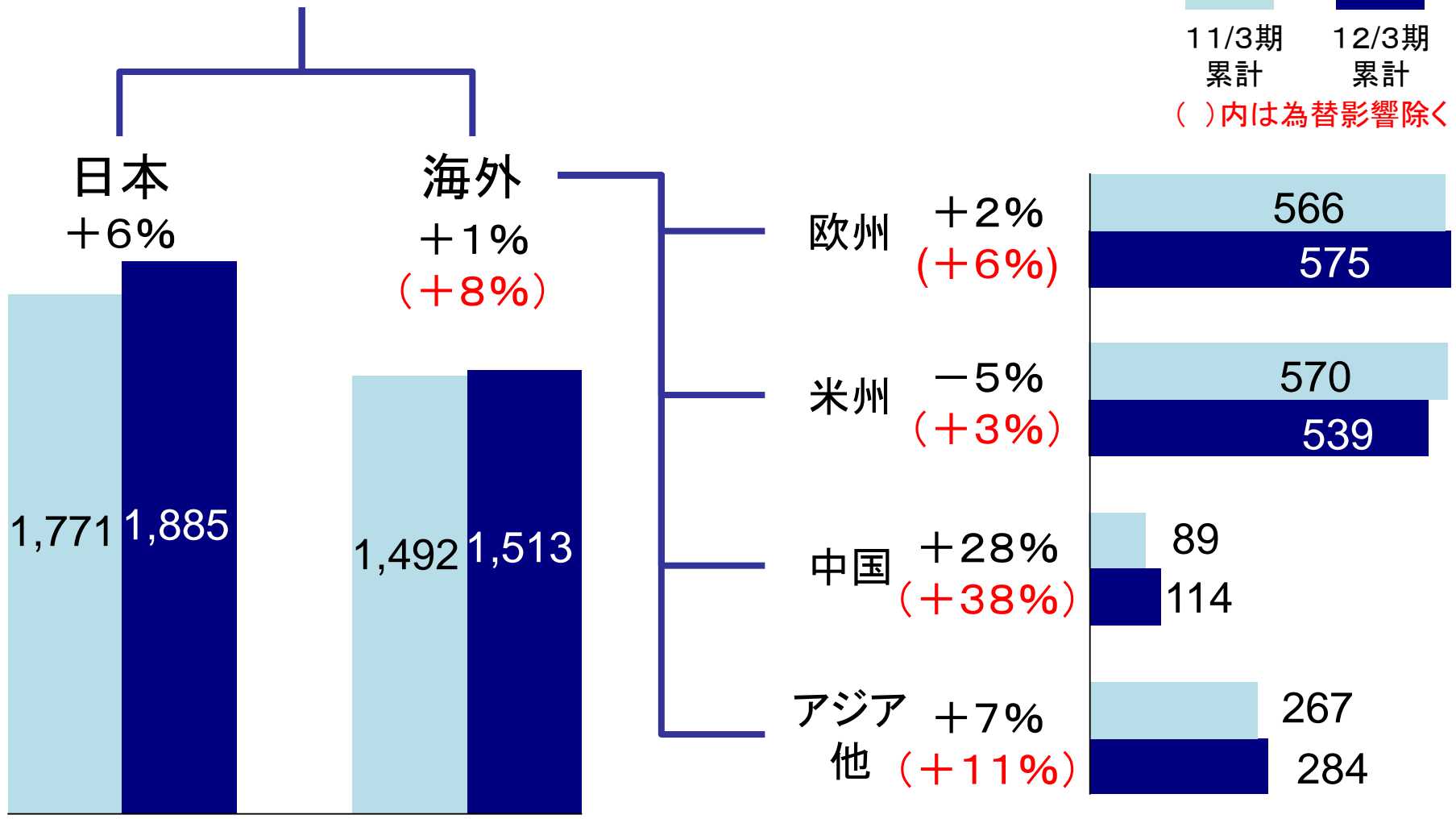
新規のれん、無形資産償却を除く

# 売上高(地域別)

連結: +4% (+7%)

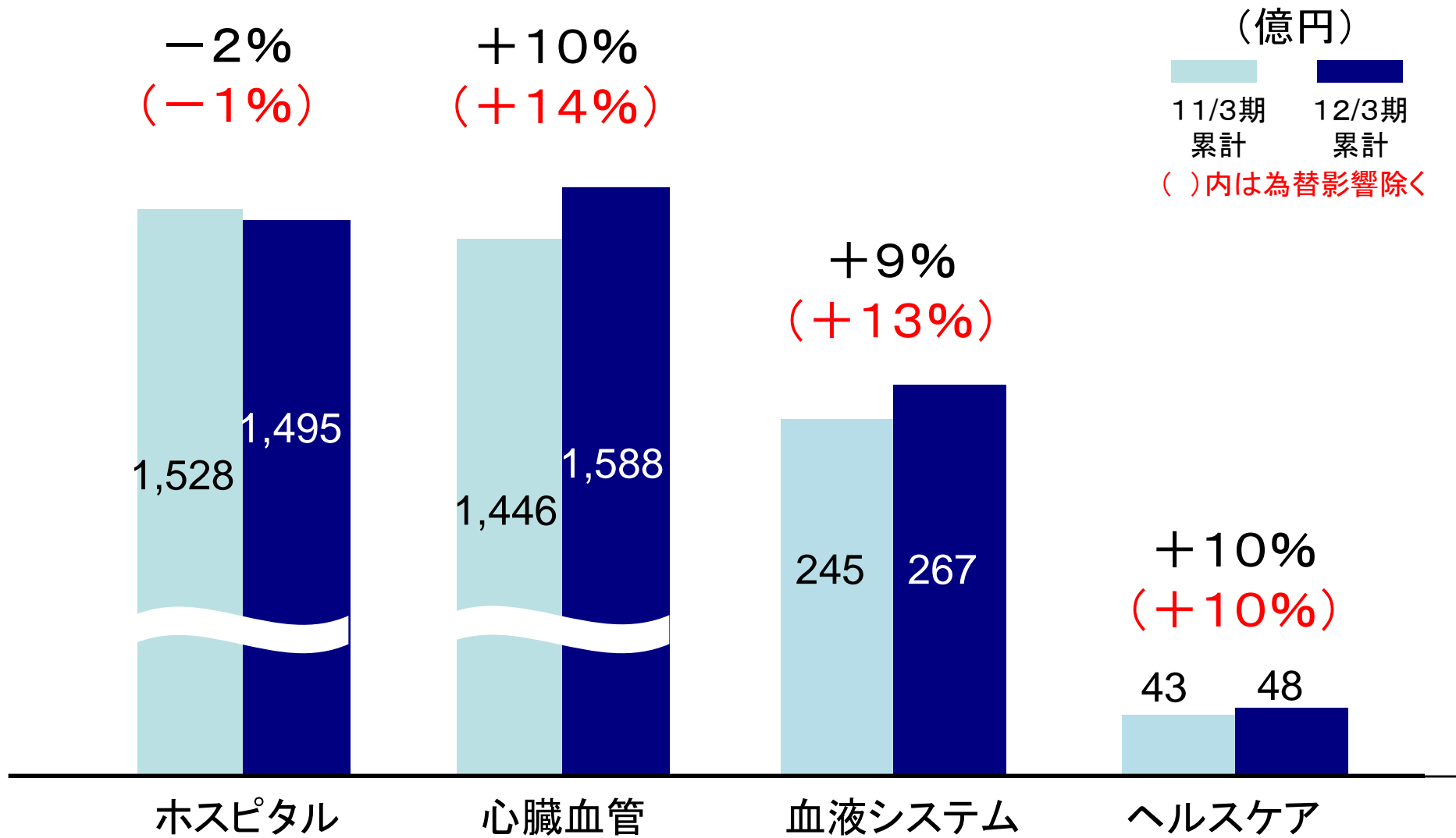
(億円)

11/3期 12/3期  
累計 累計  
( )内は為替影響除く

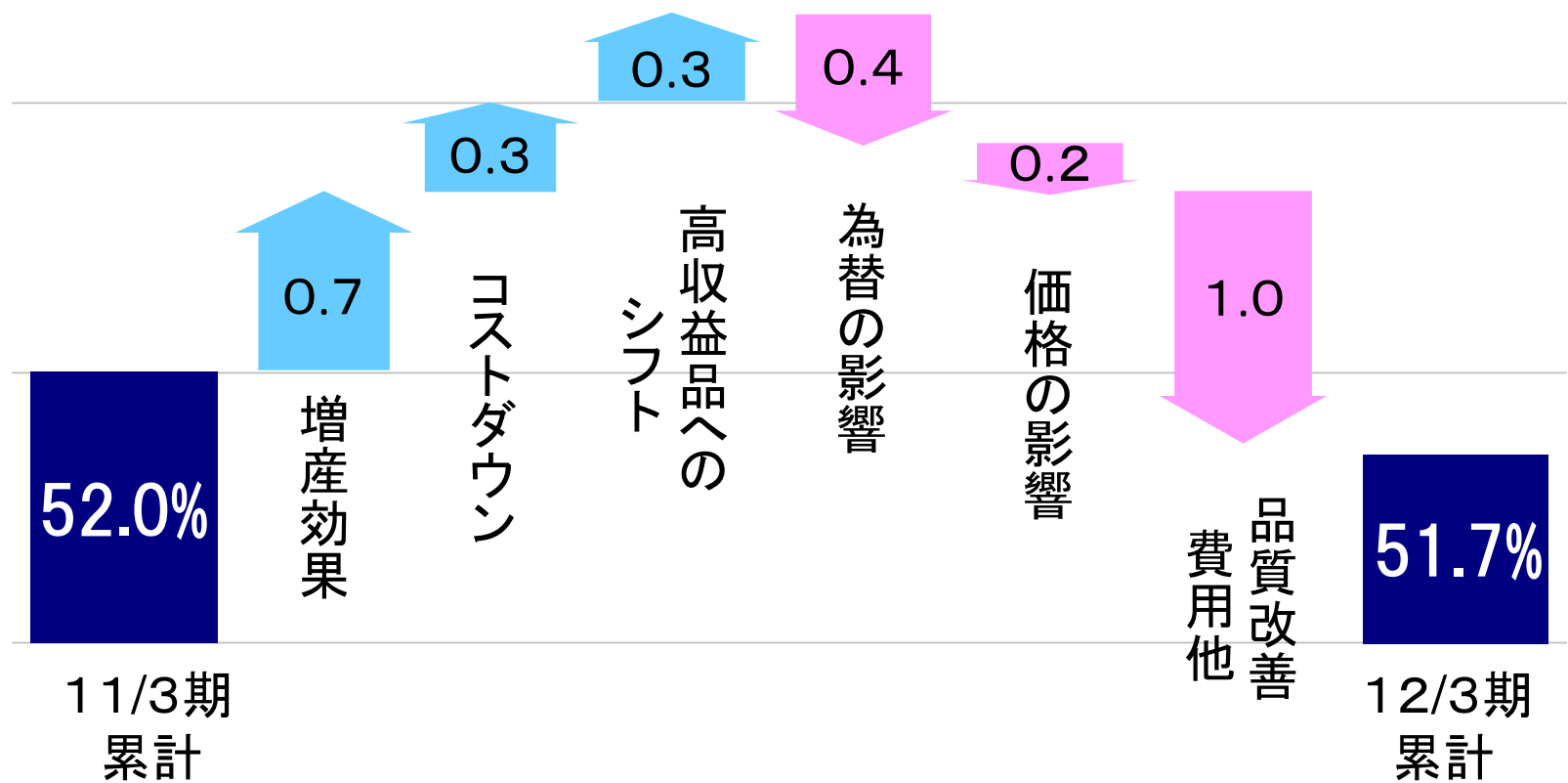


\*アジアは4-3月で統一

# 売上高(事業セグメント別)



# 粗利益率差異分析



期中平均レート	11/3期	12/3期
US\$	86円	79円
EUR	113円	109円

## 販管費

(億円)

	11/3期 累計		12/3期 累計		増減	増減率
人件費	389		390		+ 1	+0%
販促費	105		111		+ 6	+6%
物流費	96		100		+ 4	+4%
償却費	47		46		- 1	-2%
その他	241		254		+13	+5%
一般管理費計	878	(26.7%)	901	(26.6%)	+23	+3%
研究開発費	204	(6.2%)	212	(6.2%)	+ 8	+4%
販管費合計	1,082	(32.9%)	1,113	(32.8%)	+31	+3%

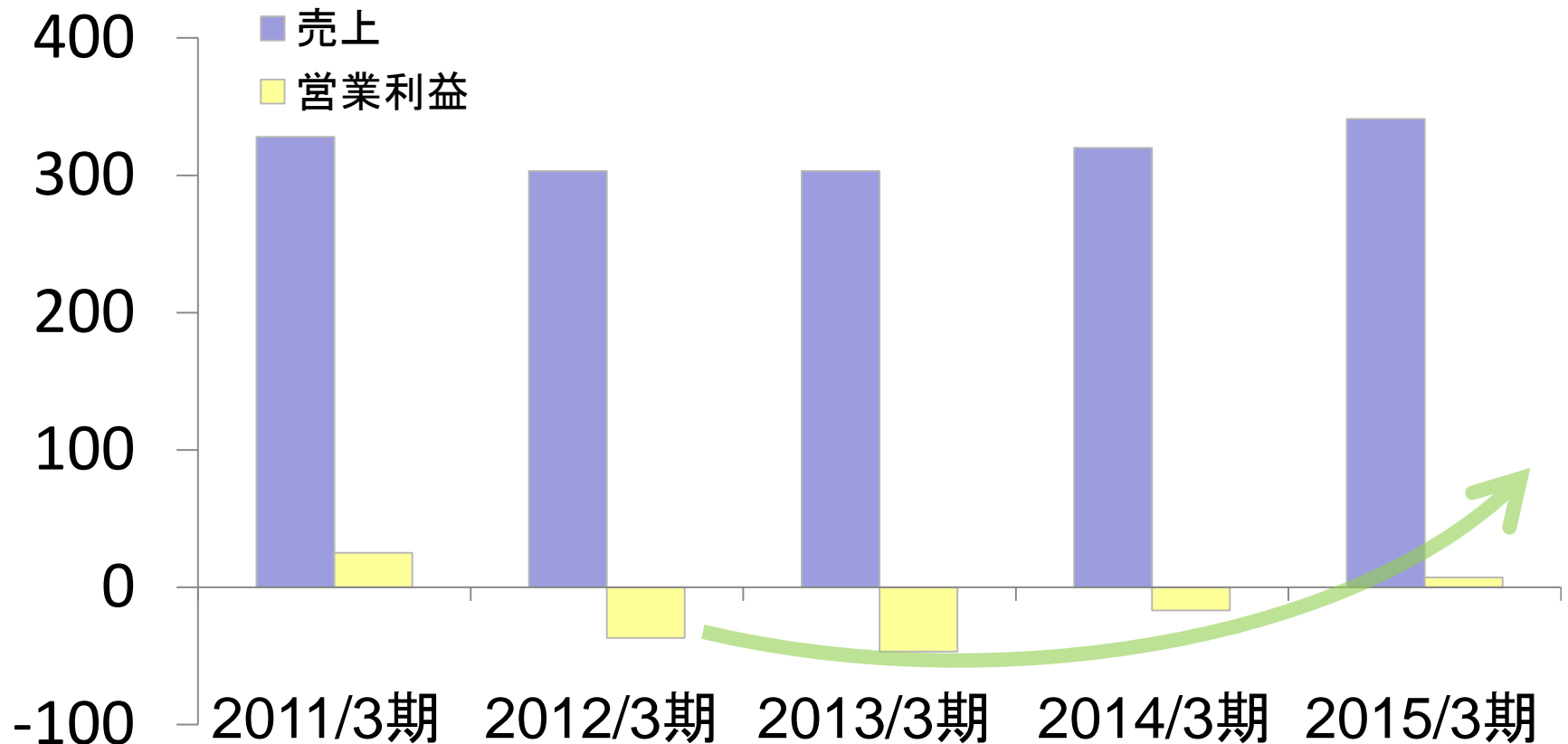
( )内は対売上高%



# CV事業：2015/3期に黒字転換を計画

- TCVS社のCV事業への売り上げ影響は限定的
- 一時的な品質投資の収束に伴い利益は回復へ

[億円]



# 2012年3月期の期末配当(予想)について

## ■ 配当方針

- 利益配分につきましては、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目標にしていまいります

## ■ 2012年3月期 期末配当(予想)

- 期末配当:22円/株 (前期末:18円(2円記念配含む))
- 年間配当:39円/株 (同: 34円)
- 配当性向:30.6% (同: 20.0%)

---

# 2013年3月期 業績予想

# 2013年3月期 業績予想

(億円)

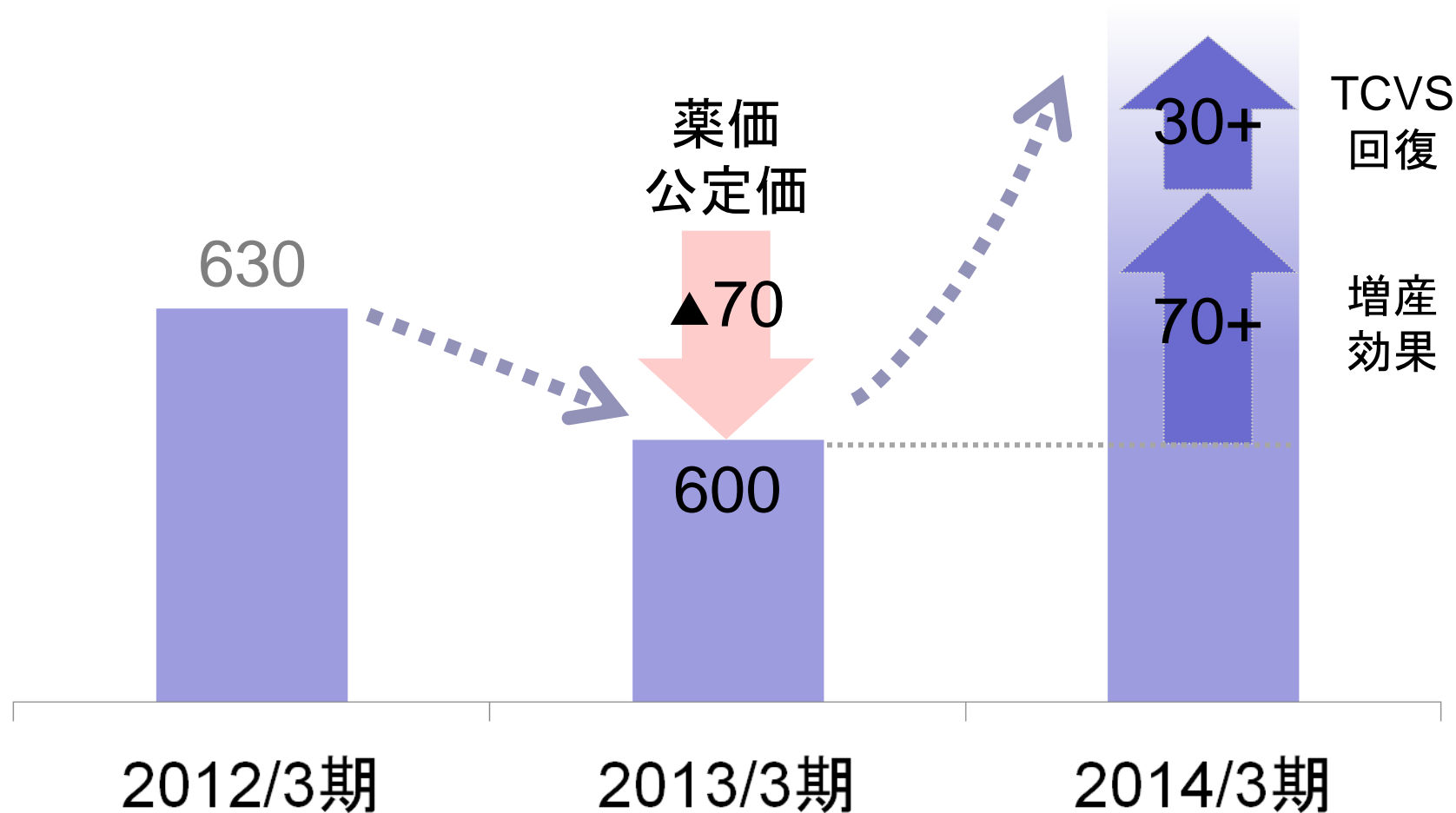
	12/3期 実績	13/3期 予想	増減率
売上高	3,867	4,100	+6%
営業利益	630	600	-5%
(のれん償却除く)	706	676	-4%
経常利益	592	580	-2%
純利益	242	340	+41%

期中平均レート	US\$	79円	80円
	EUR	109円	105円

# 今期、減益要因あるものの成長投資は継続

〔億円〕

## 営業利益の推移



# 営業利益への影響要因

---

## ■ 減益要因

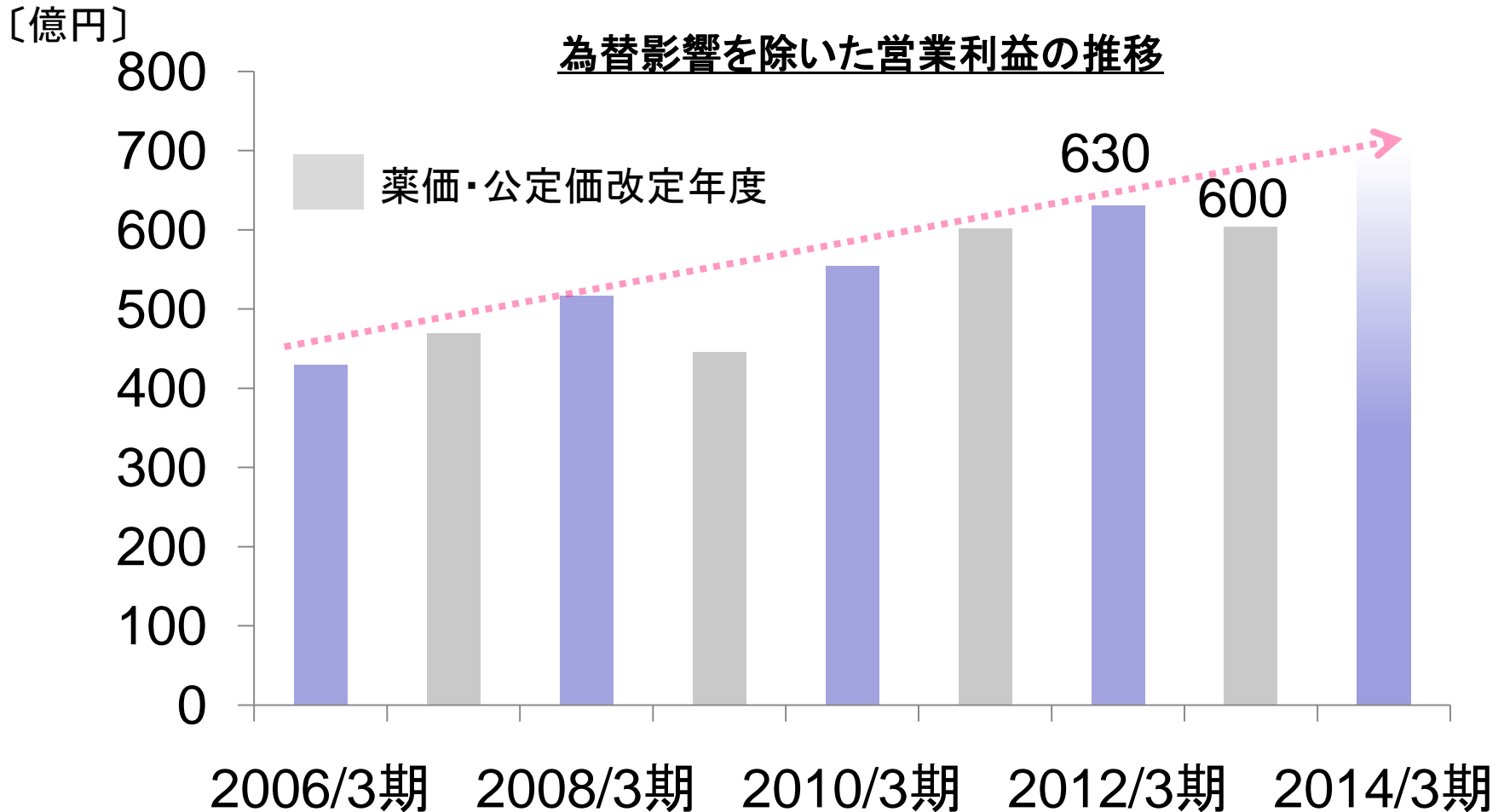
- 薬価・公定価の改定
- 償却費の増加
- 品質システムの改善

## ■ 成長投資

- 新製品の開発・治験
- ノボリ長期有効性の臨床評価  
(晩期ステント血栓症、抗血小板療法)
- システムインフラの整備

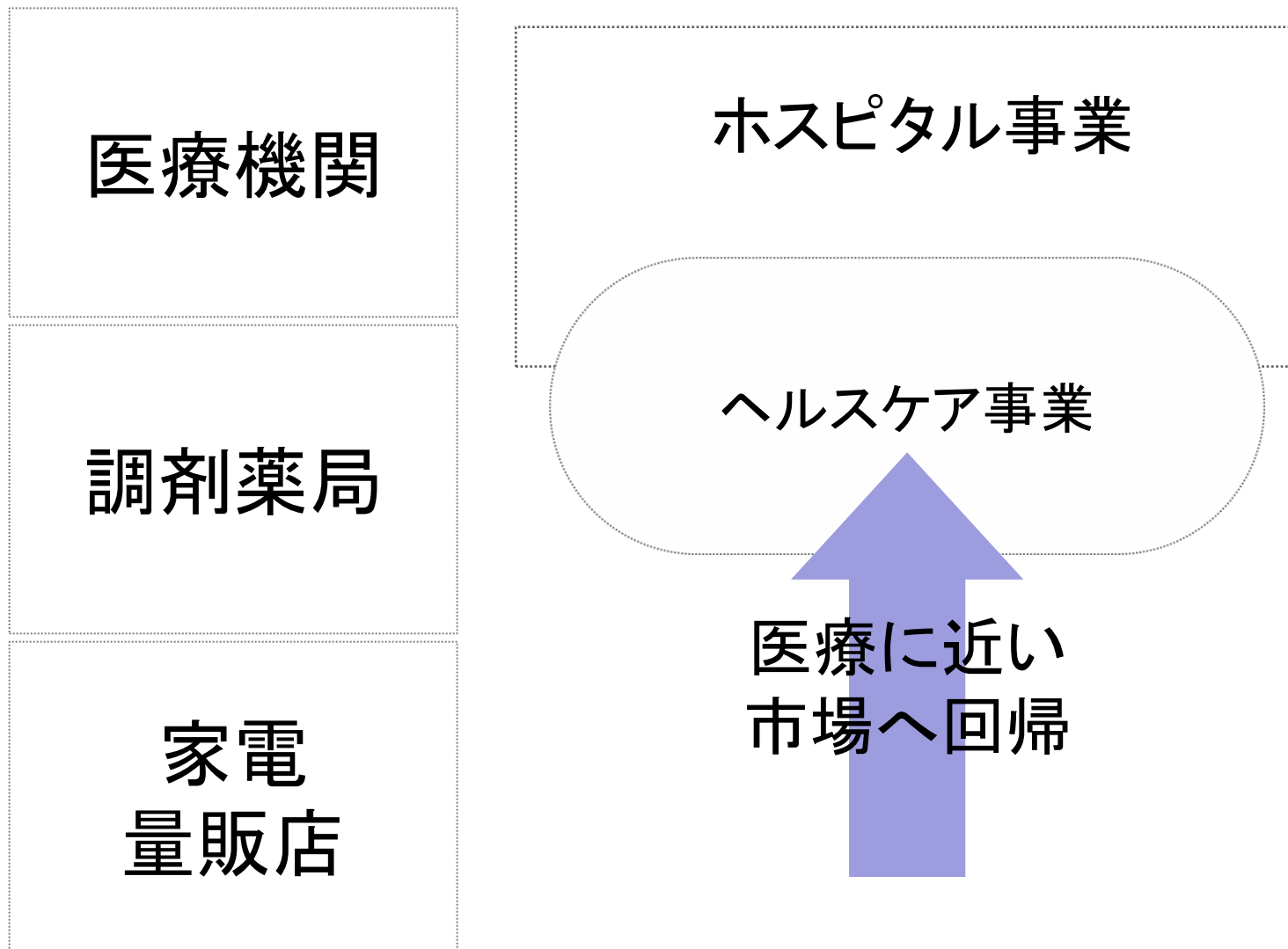
# 継続した利益成長

- 為替影響を除けば、薬価・公定価改定の次年度は営業利益が成長軌道に回復する



# ヘルスケア事業をホスピタル事業に統合

## 対象市場





---

# 今後の成長機会

# 今後の成長機会：事業 × 地域 × 新領域

---

- 事業：血液システム、グローバルD&D  
低侵襲治療など5つの成長機会
- 地域：新興国戦略の強化
- 新領域：新技術による更なる成長

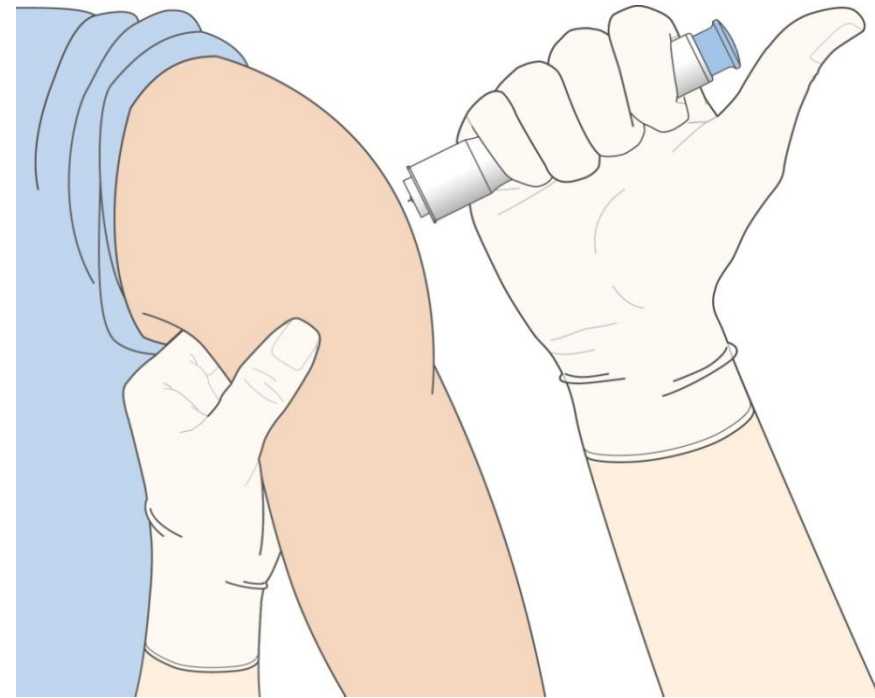
# 事業：Terumo BCT本格始動

---

- 「Terumo BCT社」2012年4月より始動
  - 本社：米コロラド州、社長：David Perez
- グローバルなリーダーシップ
  - 経営合宿を米コロラド州 BCT本社で開催
- 販売・サービスのシームレスな統合
  - 販売組織の統合・再編を完了
- 生産領域での統合を推進
  - ベトナムに新工場建設
  - 生産開始時期：2015年 夏頃（予定）

# 事業：皮内投与型ワクチンデバイスの開発

- 皮内投与型ワクチン開発で第一三共株式会社と提携
- 1/5のワクチン量で同等以上の予防効果※
- 短期間で予防効果を発揮※
- 安全性・簡便性の向上
- 注射時の痛みを軽減
- 2016年の実用化を目指す

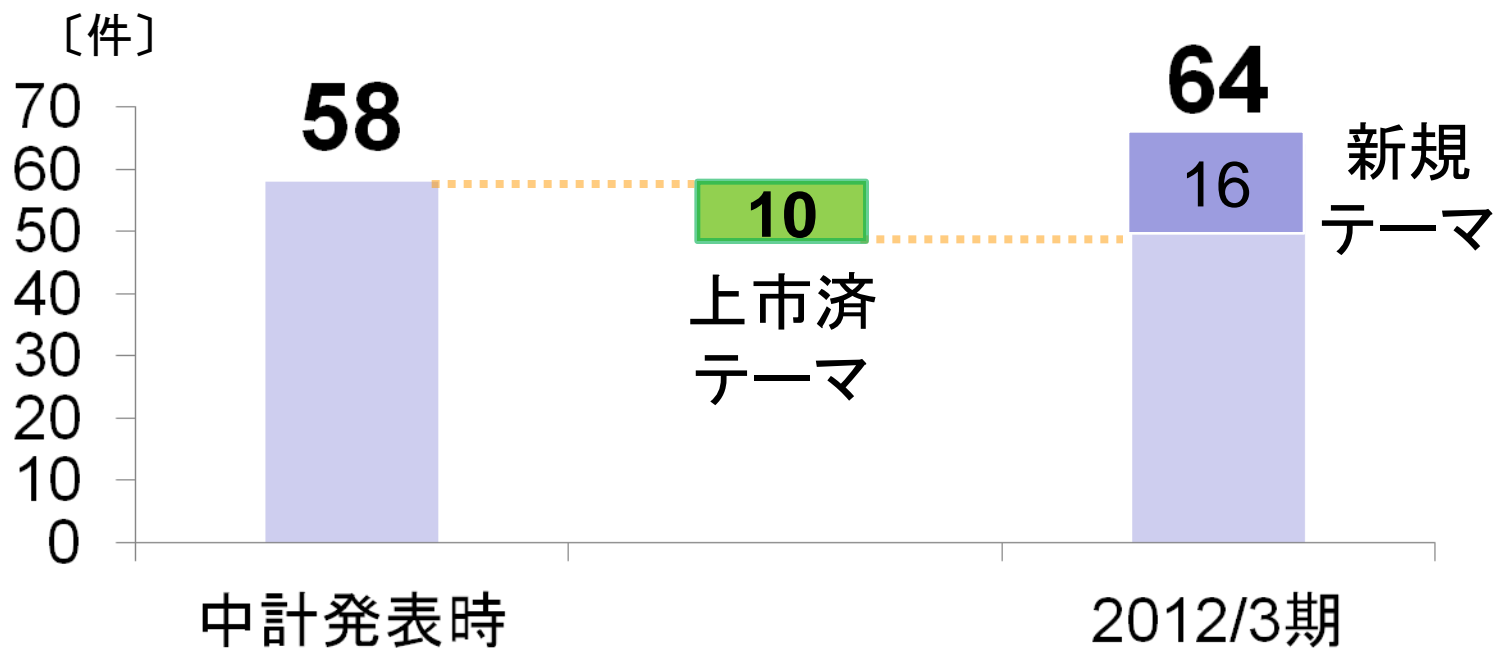


イメージ図

※ 基礎研究結果から期待される皮内投与型インフルエンザワクチンの効果

# 事業：低侵襲治療、開発テーマ数の拡大

## 低侵襲領域の開発テーマ数



## 主な上市済みテーマ

- 薬剤溶出型冠動脈ステント：ノボリ（日）
- 多自由度鉗子：Kymerax（欧）
- 末梢血管治療用 PTAバルーンカテーテル：センリ（欧・日）
- コイル留置用ステント：LVIS（欧） など 合計 10 件

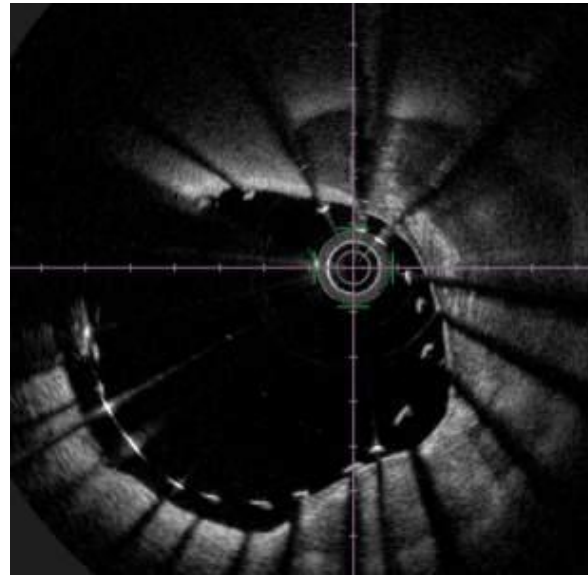
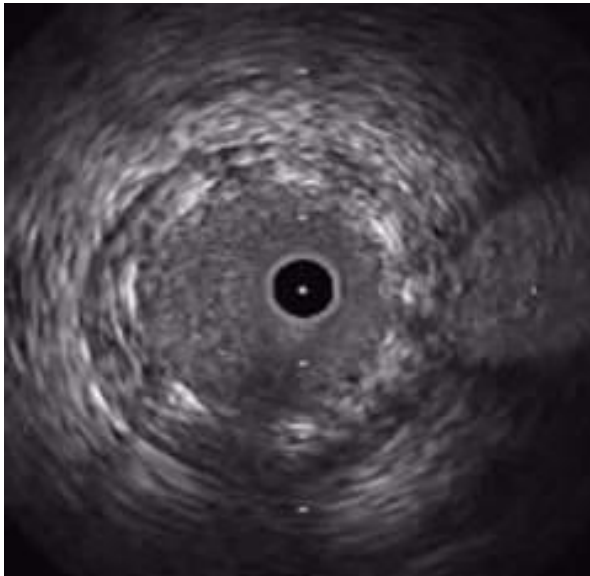


# OFDIグローバル展開

- わかりやすい画像で血管内治療をより安全・確実に
  - 高解像度で血管の状態、ステント拡張具合を正確に診断
  - 到達性・通過性に優れたカテーテル
  - 2013/3期 欧州上市予定、2014/3期 日本上市予定
  - 2013/3期 3億円、2015/3期 35億円の売上目標

IVUS画像(超音波)

OFDIの画像(光)

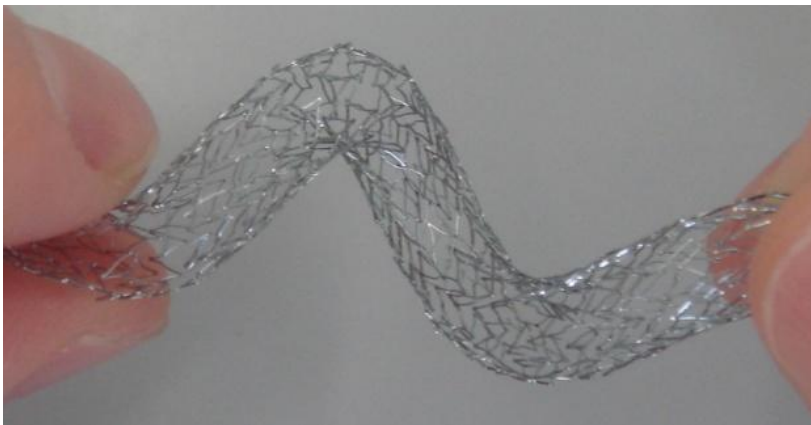


# 末梢血管用自己拡張型ステントの日本上市

## ■ 末梢血管用自己拡張型ステント

RX Self-expanding Peripheral Stent  
**Misago**<sup>®</sup>

- 柔軟なステント構造による高い耐久性
- 血管内腔を長期間開存
- 末梢血管用ステントで初めてのラピッドエクスチェンジ構造
- 簡単な操作で正確なステント留置
- 2013/3期 3億円、2015/3期 20億円の売上目標



# 地域：中国、参入領域を拡大、成長を加速へ

## ■ 現地生産・現地販売モデルの確立

➤ 輸液ポンプODM提携：KELLYMED社

➤ ポンプ用輸液セットOEM提携：

保安医療用品有限公司

広東龍心医療器械有限公司

➤ 腹膜透析(PD)合弁会社設立：WEGO社

2014/3期、売上200億円を目指す





# 新領域：米ハーベスト社の重症下肢虚血治療

## ■ CLI(重症下肢虚血)治療

- BMAC(濃縮した自己由来骨髓細胞)を患者の足に注射、血管の新生を促進

## ■ 治験の状況

- 欧州：CEマーク審査中  
(2013/3期 上市予定)
- 米国：治験実施中  
(2015/3期 上市予定)



BMAC投与前

BMAC投与後

# 参考資料

# 決算概要 (四半期3ヶ月)

	11/3期 Q4 (*)	12/3期 Q4	(億円) 増減率
売上高	840	978	+16%
粗利益	436 (52.0%)	507 (51.8%)	+16%
販管費	291 (34.7%)	375 (38.3%)	+29%
うち開発費	59 (7.0%)	67 (6.9%)	+14%
営業利益	145 (17.3%)	132 (13.5%)	-9%
経常利益	140 (16.7%)	128 (13.1%)	-8%
純利益	49 (5.8%)	22 (2.3%)	-55%
期中平均レート	US\$ 82円 EUR 113円	79円 104円	

(\*) 海外子会社会計期間統一の影響を含む

# 12/3期下期の決算概況 - 対下期見通し

(億円)

	<u>下期見通し</u>	<u>下期実績</u>	<u>達成率</u>	<u>為替影響</u>
売上高	1,923	1,960	102%	+31億円 (達成率1.6%押上げ)
営業利益	280 (14.6%)	284 (14.5%)	101%	+7億円 (達成率2.5%押上げ)
経常利益	257 (13.4%)	279 (14.2%)	109%	
純利益	83 (4.3%)	65 (3.3%)	78%	
為替レート(US\$)	75円	78円		
(EUR)	105円	104円		

# 粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)

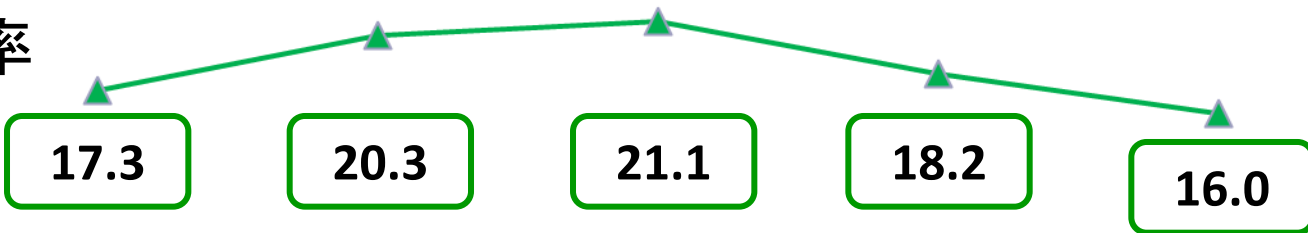
粗利益率



販管費率



営業利益率



Q4  
11/3期

Q1

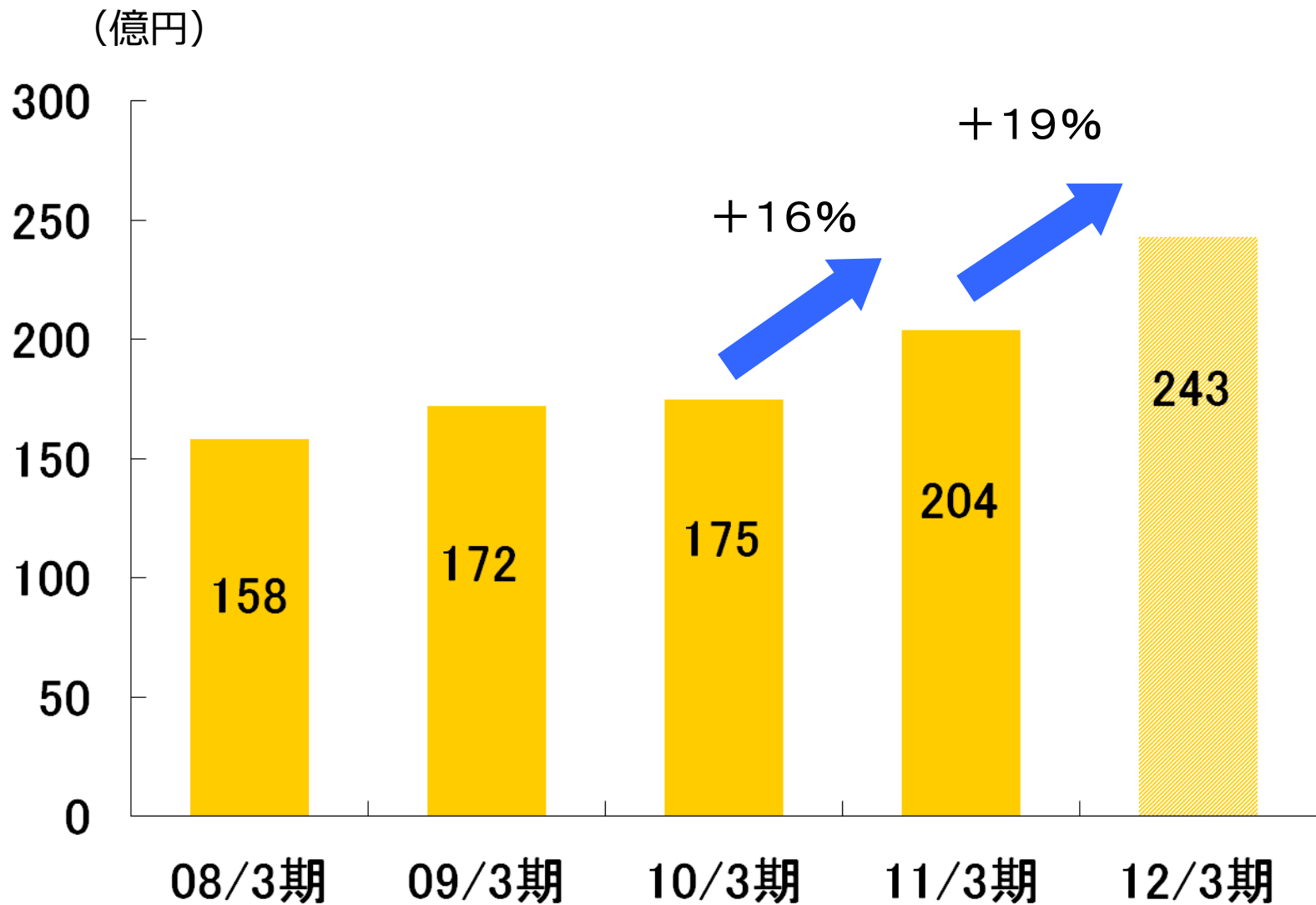
Q2

Q3

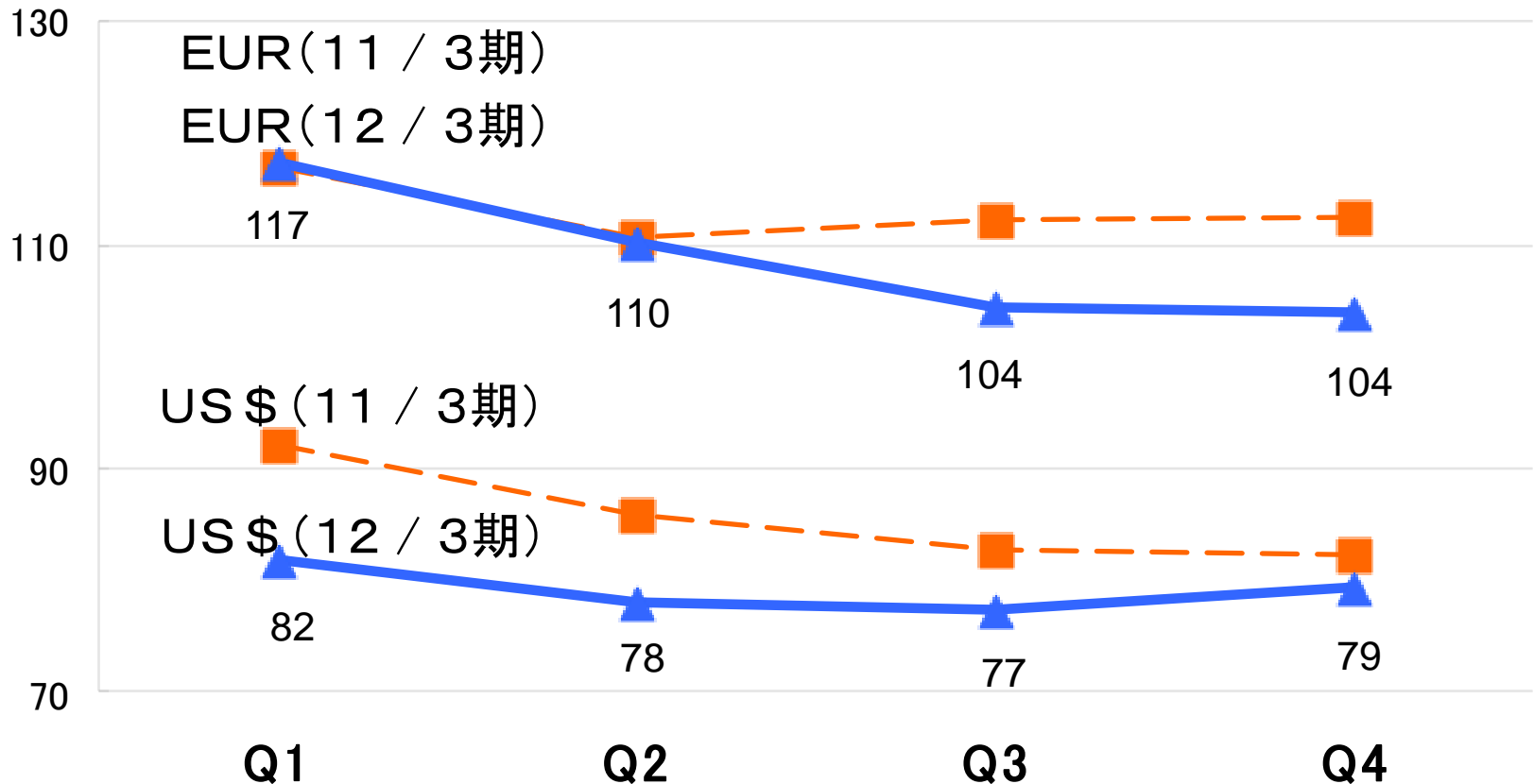
Q4  
12/3期

(各四半期の3ヶ月単位)

# 研究開発費



# 四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

# おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。